

粉河高等学校

実施日時	令和4年 2月 2日（水）
参加者	生徒230名、教職員17名、計237名
実施内容	マイトイレ作り、パーティション作成、避難所体験等

ねらい

災害発生時に、地域・学校・家庭等で高校生としてできること、助けられることを身につける。

主なプログラム

- 1 パーティション作り
- 2 マイトイレ作り
- 3 防災ハンドブック学習
- 4 振り返り

概要

- 1 LHRの1時間で、1学年6クラスを3クラスずつにわけ、教室と体育館で密にならない状態で実施
- 2 体育館では、段ボールのパーティションを組み立て、その中へ実際に入り、プライバシー確保の難しさ、生活スペースの広さや体育館における防寒性等を体感する
- 3 教室では新聞紙を使ったのマイトイレ作りと、防災ハンドブックをもとに、災害時を想定した学習を行う
- 4 アルファ米とペットボトルを各個人に配布
- 5 本日の内容について振り返り、感想文を書く

参加者感想文

・部屋をわけるために使ったダンボールを組み立てるのがすごく大変でした。いつも誰かがこの作業をしているんだなと思うと、感謝の気持ちがいっぱいになりました。しかも真冬の中の避難所となると、すごく寒いし、ご飯も衣類も限界がある中、よく耐えて生活しているなど、とても感動しました。分けているとはいえ、ダンボールだからあまり人に見られたくないこととか、情報とかもほぼ公開する事になると思うと、辛い生活だなと思いました。改めて日頃から、飲食出来ていることを有り難く思おうと思いました。

・まだ自分がこんな風な経験はしたことがないので、実際はどうか分からないけど、大変そうだなと思いました。いろいろな人たちと同じところで寝るのもダンボールで仕切られているだけ良いなと思いました。何もかもが不便になるし、特にトイレが出来ないのは本当に大変なので、新聞で作ったような工夫をしていって生活していくんだと知りました。いざとなって自分がそうなったときは、今回のことをいろいろ活かしていきたいです。

・災害が起きたときにトイレも部屋もいつもと違う生活になるとしたら、すごく大変だなと思いました。災害が起こらないことが一番だけど、もしおこってこれを実際にするとなったら自分も積極的に協力しようと思いました。

・今日の授業を受けてみて、あんな狭いところで知らない人たちと共同生活をすると考えたら苦しいだろうなと思いました。災害時は何もしないという状況に陥るので防災セットを常備したいと思いました。普段から防災セットを用意しておかないと、いざというときに不便だし、危ないなと改めて思いました。ダンボールは意外と高さが高くてびっくりしたけれど、実際あの場所で住むということになると、その高さも低く感じるだろうなと思いました。防災への意識が低下していているので、今日は改めて確かめてみたいと思いました。地震の怖さを改めて痛感しました。

・パーティションを作ってみたところを実際に見てみると、思ったよりも壁が低かったし、たくさんの方がいるので結構不便だと感じた。そして、今はコロナウィルスが流行しているので、ひとり一人の感染対策も大切だと感じた。防災グッズを家できちんと備えておきたいと思った。南海トラフ巨大地震は30年以内に80%の確率で起こると聞いて、自分が生きている間に必ず来るといってもおかしくないので、本当にこわいと思うし、避難場所なども確認しないといけないと思う。

・体育館の仕切り作りをみて、意外と組み立てるのが難しく、高さが低くて床で眠ったり、座ったりしないといけないということが分かりました。夏や冬の時だと過ごしにくいと思いました。教室でマイトイレ作りをして、いつも広告とかで作っているものの大きさを変えるだけで、様々な使い道ができるということが分かりました。大きな地震が来てライフラインが止まったときに、トイレが流せないことは困るので、簡単にトイレが作れるのは良いなと思いました。